史上最も華々しい911

ル・マンのためのニュー911 RSR

ドイツ. ポルシェAG（本社：ドイツ、シュトゥットガルト 社長：Dr. オリバー・ブルーメ）は、ゼロから新開発されたGTレーシングカーによって2017年のモータースポーツに取り組みます。ニュー911 RSRは、ル・マン24時間レースのGT規定に準拠しながら、体系的な軽量設計に加えてリアアクスル前部に最新式水平対向6気筒エンジンを搭載します。非常に軽量な4リッターエンジンは、ダイレクト・フューエル・インジェクションとリジッドバルブドライブを備え、抜群の効率性を特徴とします。ニュー911 RSRは、2017年1月にデイトナ24時間レースでデビューします。

「911特有のデザインを維持しながら、GTのトップモデルとして史上最高の進化を遂げています」とポルシェ・モータースポーツ副社長のDr. フランク・シュテファン・バリサーは話します。完全に新開発されたニュー911 RSRは、サスペンション、ボディ構造、エアロダイナミクスコンセプト、エンジン、およびトランスミッションがゼロから設計されています。そのエンジンコンセプトによって特に大型のリアディフューザーの取り付けが可能になりました。LMP1レーシングカーの919ハイブリッドから採用したトップマウントリアウイングとの組み合わせで、ダウンフォースとエアロダイナミクスの効率性が大幅に改善されています。

「911 RSRのために、私達は意図的に、特に軽量な最新の自然吸気エンジンに焦点を合わせました。これが車両の開発においてエンジニアに大きな自由を与えました。新しいLM-GTE規定は、ターボエンジンと自然吸気エンジンのトルク特性が一致するなど、原則として多彩なドライブコンセプトが完全に平等となるレギュレーションです」とDr. バリサーは説明します。新しい自然吸気エンジンは、リストリクターのサイズに応じて約375kW（510PS）の最高出力を発生します。ステアリングホイールのパドルシフトは、マグネシウムハウジングを備えた6速シーケンシャルトランスミッションを作動して、31cm幅の後輪にトルクを伝えます。911 GT3 Rと911 GT3 Cupに続き、ポルシェGTレーシングカーも、同様の最新式水平対向6気筒エンジンファミリーによって駆動されます。これにより新世代エンジンへの転換は完了しました。

かつてポルシェは、1996年に911 GT1によって911のコンセプトを徹底的に押し進めました。大きな成功を収めた911 GT1は、1998年のル・マン24時間レースでポルシェに16回目の総合優勝をもたらしました。当時はGT1クラスがル・マンにおけるトップカテゴリーでした。

ポルシェGTレーシングカーは、初めて最新のアシスタントシステムを備えます。ニュー911 RSRには、「コリジョン・アボイド・システム」と呼ばれるレーダーサポートによる衝突警告システムが装備されます。夜間にも、高速のLMPプロトタイプを早期に検知して接触を回避します。新しい安全ケージコンセプトと強固に取り付けられた新しいレーシングシートがドライバーの安全を強化します。シートはシャシーに固定され、ペダルを動かして調節し、ドライバーに適合させることができます。

ニュー911 RSRのサービスも大幅に改善されています。インテリジェントなクリックリリースファスナーによって、カーボンファイバーボディのエレメント全体を短時間で完全に交換することができます。さらに、サスペンションセットアップの変更をより簡単迅速に行うことができます。

911 RSRの外観は、ボディ全体に渡って新しい方向性を示します。GTレーシングカーは、ポルシェ モータースポーツの明確でダイナミックなデザイン言語をさらに発展させた

新しいファクトリーデザインを備えます。鳥瞰すると、ポルシェのエンブレムを暗示するシルエットが見られます。ベーシックカラーは、ホワイト、レッド、およびブラックです。

ファクトリーは、2017年シーズンに140時間以上のレースに匹敵する19のレースでニュー911 RSRを走らせる予定です。ポルシェは、2台のファクトリーエントリーによってル・マン24時間レースを含むFIA世界耐久選手権（WEC）と米国のIMSAウェザーテック・スポーツカー選手権に参戦します。新しいレーシングカーは、1月28日－29日にデイトナのIMSA開幕戦において最も過酷な条件でデビューします。「レースに備えて十分な準備をしています。今年3月のヴァイザッハでの初公開以来、欧州と北米のサーキットで35,000kmにおよぶテスト走行を行ってきました。この距離は、他のどのポルシェGTレーシングカーの開発過程をも上回ります」とGTモータースポーツ総合プロジェクトリーダーのマルコ・ウジュハシは話します。